

Gifu University 1949-2018



2019.06
SPECIAL ISSUE

70th



岐阜大学の70年

～変革期となった20年間をふりかえる～



発行にあたって

岐阜大学は2019(令和元)年6月に創立70周年を迎えることができました。1949(昭和24)年5月31日に新制大学として発足以来、社会の期待に応える「学び、究め、貢献する」人材の育成を最大の使命とし、様々な教育研究活動に取り組んでまいりました。現在、本学は教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部の5学部・8研究科をはじめ、多くの学内教育研究施設を有する東海地方の拠点中規模総合大学として、その地位を確立しています。このように歴史を刻み、70周年という節目を迎えられたのもひとえに卒業生をはじめ、地域の皆様方の温かいご支援の賜と心より感謝申し上げます次第です。

さて、本学では70周年を契機として、学内に蓄積された知の資産を未来に継承していきたいとの信念から、学術アーカイブズの構築をはじめ、記念誌の編集・発行、記念式典・記念講演会等の記念事業を実施し、その他各部局による様々な70周年記念行事を実施しています。

本冊子「岐大のいぶき創立70周年記念特別号」は、幅広い読者の方に見ていただくため、裏表紙にある岐阜大学創立70周年記念誌「岐阜大学の七十年」から一部を抜粋し、記念誌には掲載されていない、2019(令和元)年6月1日に行われた記念式典の様子、関連した行事を掲載しています。ぜひご高覧ください。

この先も岐阜大学はより存在感のある大学としてさらなる飛躍を遂げるべく努力を続けてまいります。今後も引き続きご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

第12代 岐阜大学長
森脇 久隆

Gifu University 1949-2018

70th

目次

岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)	4
法人化前 [1999(平成11)年-2003(平成15)年]	6
高等教育の多様な発展 個性が輝く大学づくり	
第1期中期目標期間 [2004(平成16)年-2009(平成21)年]	10
新たな法人制度の始動期 自律的・自主的な環境の下での大学活性化	
第2期中期目標期間 [2010(平成22)年-2015(平成27)年]	16
法人化の長所を生かした改革の本格化 大学のミッションに応じた機能強化の推進	
第3期中期目標期間 [2016(平成28)年-]	22
持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す大学づくり 大学の将来ビジョンに基づく機能強化の推進と自己改革の実行	
岐阜大学キャンパス芸術作品 Art of Gifu University	26
岐阜大学創立70周年記念式典	28
岐阜大学創立70周年記念行事	30

岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)

[2025年に向けて]

岐阜大学は2004(平成16)年に国立大学法人となり、以来、6年を一つの期間として改革を進めてきました。第1期は2004(平成16)年から、第2期は2010(平成22)年から、第3期は、2016(平成28)年4月から始まりました。また、2025年に向けての10年先を見据えた計画を、この「岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)」に示しています。

2014年5月

2018年9月

学び究め貢献する岐阜大学を
「人が育つ場所」
という風土の中で実現する

「地域活性化の中核拠点であると同時に、
強み・特色を有する分野において
全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」
を目指します。



高等教育の多様な発展 個性が輝く大学づくり

教育

地域に根ざす大学の理念のもと、教育組織の改善・強化、地域の社会人・職業人の学びの場の提供、地域や他組織との連携強化を積極的に行ってきました。教育組織の改善・強化では、工学研究科に独立専攻の環境エネルギーシステム専攻(博士課程)、医学部に看護学科、地域科学研究科(修士課程)、医学研究科に再生医科学専攻(博士課程)が新設されました。地域の社会人・職業人の学びの場の提供や支援として、教育学研究科に夜間・遠隔授業を主な教育手法とするコースの開設や、生涯学習教育支援センターにおける地域の生涯学習推進のための活動が本格化しました。地域や他組織との連携強化では、岐阜県総合教育センターとの教員の資質向上に関する覚書の調印、県内産業界や自治体、各種業界団体が加入する地域交流協会の設置、現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)による自治体との協定書の締結などのほか、海外の諸大学との学術交流協定が積極的に締結されるようになってきました。

2000(平成12)年3月9日
地域科学部校舎竣工



2000(平成12)年4月1日
生涯学習教育研究センター設置



2000(平成12)年10月1日
医学部看護学科設置



2002(平成14)年4月1日
流域圏科学研究センター設置



2001(平成13)年9月13,14日
第1回岐阜シンポジウム開催



2003(平成15)年10月29日
第1回岐阜大学フォーラム開催

研究

大学の研究シーズの活用による社会貢献を推進するため、情報発信、産官学連携、知的財産管理・活用の支援体制の整備が行われました。特に、地域の産業界、自治体や公設試験研究機関、金融機関等との連携体制が強化され、人事交流や各種事業が推進されました。一方で、競争的研究資金の獲得のため組織的な特色ある研究や学際領域研究の創出が重視され、また、流域圏科学研究センター、生命科学総合実験センターやCOE野生動物救護センター*の設置など研究組織の充実も進められました。

*文部科学省の岐阜大学21世紀COEプログラム「野生動物の生態と病態からみた環境評価」の事業推進拠点として設立されました

社会貢献

平成14年度に文部科学省が地域貢献推進特別支援事業を開始し、15大学を選定して事業を実施させたことにより、大学の社会貢献活動への関心が急速に高まりました。こうした状況の中で、本学においても2001(平成13)年に地域交流協会が発足(※同会HPによる)し、また2002(平成14)年8月には、既存の地域共同研究センターとバーチャルラボの統合による産官学融合センター(現・研究推進・社会連携機構)を設立しました。また、2001(平成13)年9月に第1回岐阜シンポジウムを、そして2003(平成15)年10月には第1回岐阜大学フォーラムを開催するなど、制度・運営の両面で社会貢献拡充に向けての準備が整いました。

国際

岐阜大学では、海外の大学と人材交流を図り教育・研究を推進するために、積極的に学術交流協定を締結してきました。学術交流協定は、ヨーロッパ、アジア、北米などの大学と、大学間レベルで26大学、部局間レベルで8機関(2003(平成15)年12月1日現在)に及び、着実に国際化の道を歩んでいました。また、国際協力機構(JICA)プロジェクトに参画するなど、国際的(グローバル)な視野での社会貢献、人材育成のための国際協力活動が行われました。この時期、サマースクールへの学生の短期受け入れだけでなく、2001(平成13)年には留学期間が1年間に及ぶ日本語・日本文化研修プログラムなど特徴ある教育プログラムをスタートさせています。2003(平成15)年には海外に短期留学する学生を支援をする奨学金支給制度を創設しました。



2001 (平成13)年10月1日
外国人留学生のための日本語・日本文化研修プログラムが発足

医療

この時期は、平成16年度の司町地区から柳戸地区への附属病院移転・開院に向けて、診療改革、地域連帯、患者サービス改革、組織・運営改革、経営改善など、様々な事項について検討を行い、一部については、移転・開院を待たず実施した時期に当たります。診療面では、平成14年度に消化器領域と呼吸領域の内視鏡に関する医療全般を担当する光学医療診療部を、平成15年度には患者さんやご家族が抱える様々な問題の解決に向けた支援を行う総合医療相談室を備えた医療福祉センター(現医療連携センター)及び感染対策、予防接種、栄養マネジメント等を行う生体支援センターを設置しました。教育・研究面では、平成16年度から施行された医師法改正を先取りする形で、卒後臨床研修の必修化を円滑に実施するため、平成14年度に卒後臨床研修センター(現医師育成推進センター)を設置しました。



2001 (平成13)年4月23日
アンダラス大学(インドネシア)と大学間学術交流協定を締結



1999 (平成11)年6月1日
50周年記念式典(岐阜大学祝典歌の制定 制定披露演奏会)



2003 (平成15)年11月
独立行政法人化対応検討状況の説明会

その他

1999年(平成11年)6月、創立50周年式典に伴い岐阜大学祝典歌披露演奏会が開催されました。また教育研究環境の充実としてキャンパスでは2000(平成12)年、地域科学部校舎が竣工しました。この時期は、国立大学法人化の準備が進められた時期でもあります。2002年(平成14年)3月、国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議による「新しい「国立大学法人像」について」報告に続き、2003(平成15)年7月「国立大学法人法」が公布されました。本学でも独立行政法人化検討委員会を組織し、法人化対応検討状況の説明会(2003(平成15)年11月)、特別講演会「法人化と国立大学の課題」(2004(平成16)年1月)を開催しつつ、法人化の準備が進められました。

第1期中期目標期間 [2004(平成16)年-2009(平成21)年]

新たな法人制度の始動期

自律的・自主的な環境の下での 大学活性化

教育

国立大学法人として、6年毎の中期目標・中期計画のもと、その活動が始まりました。法人化前から取り組んでいる教育組織の改善・強化、地域の社会人・職業人の学びの場の提供、地域や他組織との連携強化をさらに押し進めてきました。いくつかの取り組みは、高等教育における良い取り組みを支援する各種GP(グッドプラクティス)などに多く採択されるなど高く評価されています。

教育組織の改善・強化では、医学研究科・医学部・附属病院が柳戸キャンパスに移転することで、ほぼすべての教育研究組織がワンキャンパスにあるという強みを発揮できる環境が整いました。農学部を改組した応用生物科学部を発足し、医学系研究科看護学専攻(修士課程)、連合創薬医療情報研究科(博士課程)、応用生物科学研究科(修士課程)を新設しました。地域の社会人・職業人の学びの場の提供では、教育学研究科にいわゆるインターネット型大学院を開設するほか、専門職大学院である教職実践開発専攻(教職大学院)を設置しました。



2007(平成19)年4月1日
大学院連合創薬医療情報研究科設置



2007(平成19)年4月1日
大学院教育学研究科インターネット型大学院開設



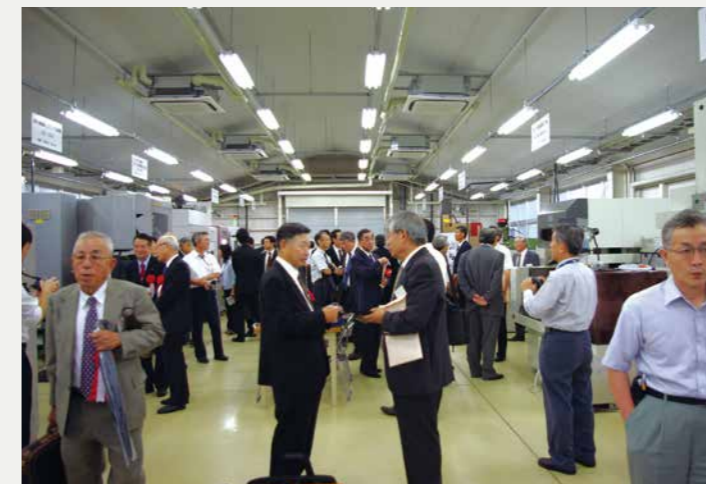
2008(平成20)年9月
平成20年度大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)
「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」に採択

研究

“学び、究め、貢献する岐阜大学”のスローガンのもと、岐阜大学を特徴付けるため、基礎研究や萌芽の研究をはじめ、地域貢献を重要視した研究、更には、海外大学との学術交流協定などに基づいた国際的な研究が推進されました。国立大学法人第1期のこの期間は、各種の競争的研究資金の導入などが進行して、金型創成技術研究センター、物質-細胞統合システム拠点iCeMS 岐阜大学サテライト研究施設などが設置されるなど、各種研究組織が拡充され、岐阜大学の研究の魅力創造や活性化が図られました。



2007(平成19)年4月
医学系研究科・医学部附属地域医療医学センターを設置



2009(平成21)年4月
金型研究センター開所



2009(平成21)年6月26日
物質-細胞統合システム拠点iCeMS岐阜大学サテライト研究施設開所



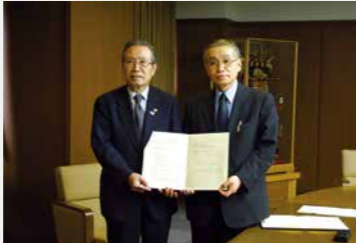
2007 (平成19) 年10月10日
各務原市、各務原商工会議所と包括連携協定を締結



2008 (平成20) 年3月28日
岐阜県と包括連携協定を締結



2009 (平成21) 年2月27日
岐阜市と包括連携協定を締結



2009 (平成21) 年4月17日
高山市と包括連携協定締結



2009 (平成21) 年10月28日
可児郡御嵩町と包括連携協定締結



2005 (平成17) 年2月2日
広西大学 (中国) との学術交流協定に基づく
学生の交流に関する覚書を締結
2017年撮影



2005 (平成17) 年12月3日
「岐阜大学中国同窓会」が発足



2007 (平成19) 年4月
ハノイ工科大学およびダナン大学との
ツィニング・プログラム受入



2009 (平成21) 年5月11日
岐阜大学上海オフィス (中国) 開設

国際

国際化への全学的な取り組みとして、国際交流委員会の主催で、外国人による講演会が毎年開催されました。2009 (平成21) 年には、国際化を推進する中核的な組織として国際戦略本部が設置され、「留学生30万人計画」や「国際化拠点整備事業 (グローバル30)」の施策に沿って、優れた留学生の確保、学生の海外留学の促進、海外協定大学との研究連携、国際情報の発信に取り組みました。この時期、海外活動の拠点となる海外オフィスを開設し、国際展開力の強化を図りました。また、海外協定大学との協働教育や、日本人学生と留学生の混在型教育など、グローバルな人材育成のための教育プログラムをスタートさせました。学術交流協定は大学間協定38大学、部局間協定13機関 (2010 (平成22) 年2月1日現在) へと増加しました。

社会貢献

第1期中期目標では、「学生のインターンシップ事業等を通じて地域社会との連携を深める」「初等中等教育も含めた大学入学前教育に対する教育貢献を進める」「一般社会人を対象とした生涯学習事業等を拡充する」「技術移転事業の促進と環境整備を行う」「近隣大学との連携を強化する」ことに加えて、「地域産業界や自治体との連携・協力を推進する」ことを掲げました。そして、この目標に従って、2004 (平成16) 年4月の法人化後は、産業界の中でも特に金融機関および自治体との連携協定が次々と締結され、社会貢献拡充のための施策が開始されました。

医療

診療面では、2004(平成16)年4月に「高次救命治療センター」を設置し、救急医療分野の強化を行うとともに、2006(平成18)年8月には、「がん、肝疾患、難病、エイズ」等の診療連携拠点病院に指定され、地域医療機関等と連携を図りながら、岐阜県における拠点病院としての役割を果たしています。教育・研究面では、地域医師不足解消のために、地域医療機関と連携した後期研修医教育体制を整備するとともに、地域医療に関わる医師の養成等のために2007(平成19)年4月に開設した地域医療医学センターを中心に取り組んでいます。また、2010(平成22)年1月に内視鏡外科手術トレーニングセンターを開設し、今後増加が見込まれる内視鏡手術の外科技術向上を目指す体制を整備しています。



2004(平成16)年4月
高次救命治療センター設置



2004(平成16)年6月
医学研究科・医学部・附属病院が移転

その他

2004(平成16)年4月、本学は国立大学法人岐阜大学となり、役員会、教育研究評議会がスタートしました。同時に、国立大学法人では、大学経営者と教員との対話が重要との認識から、第1回キャンパスミーティング(2004年7月)を開催しました。教育研究環境の充実としてキャンパスでは、2009(平成21)年11月、本学キャンパス内に岐阜薬科大学新校舎が竣工しました。これにより、本学の大きな特徴である医・薬・獣研究のワンキャンパスが実現しました。また教職員がより働きやすい環境整備の一環として、2007(平成19)年3月、キャンパス内に保育園「ほほえみ」を設置しました。創立60周年を迎えた2009(平成21)年6月には、全国公募後、学内の教職員および学生の投票により、岐阜大学ロゴマークを制定しました。



2009(平成21)年6月1日
大学ロゴマーク制定

岐阜大学創立60周年を迎え、全国公募後、学内の教職員および学生の投票により決定しました。わが国屈指の質の高い高等教育システムの実現(学び)、生命・環境科学をはじめとする豊かな自然と人との調和を目指す研究拠点(究め)、地域の発展に寄与することによる教育研究活動の充実(貢献する)など、これら岐阜の地での豊かな教育研究活動が、日本全体・そして世界へと発信されて行くこと、また岐阜大学学生が自らの将来に矢のようにまっすぐ進むことを祈念してデザインされています。さらに学章が力強い弓と融合し、岐阜大学の頭文字「G」を形作っています。



2004(平成16)年4月1日
国立大学法人岐阜大学発足



2004(平成16)年7月20日
第1回キャンパスミーティング



2007(平成19)年3月3日
保育園「ほほえみ」設置



2009(平成21)年10月30日
本学キャンパス内に岐阜薬科大学新校舎竣工

第2期中期目標期間 [2010(平成22)年-2015(平成27)年]

法人化の長所を生かした改革の本格化 大学のミッションに応じた 機能強化の推進

教育

第2期では、社会における大学や学部の役割を明確にし、その実現が期待される段階となりました。人材育成という視点での高等教育の改革が求められ、本学においても、地域に根ざす大学としての機能や連携の強化と強みの重点化、地域との協働や他大学と連携した学生の学びの場の創出に取り組んできました。

図書館の書庫増設とリニューアルが行われ、学生の主体的な学びの場であるアカデミック・commonsを館内に設置しました。

他大学との連携では、医学教育開発研究センターが全国医学教育利用拠点として認定、地域科学部が岐阜経済大学および岐阜市立女子短期大学と協定を締結、工学部が韓国忠南大学校と学部間協定を締結、岐阜大学と鳥取大学の共同獣医学科が発足するなど、他大学との連携が進められました。地域との協働では、岐阜駅前にサテライトキャンパスを設置し、教育研究情報・サービスの提供機能や交流機能を強化しました。



2012(平成24)年10月9日
岐阜大学サテライトキャンパス開所



2013(平成25)年4月1日
岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科設置



2015(平成27)年6月1日
アカデミック・commonsオープン



2014(平成26)年4月1日
工学部附属インフラマネジメント
技術研究センター開所



2014(平成26)年8月29日
総合研究棟Ⅱの設置



2014(平成26)年9月5日
岐阜地域の製造業者、金融機関等の関係者に
研究現場を見てもらうラボ・ツアーを開催



2015(平成27)年3月10日
タイ教育省基礎教育委員会(タイ)と学術交流協定締結

研究

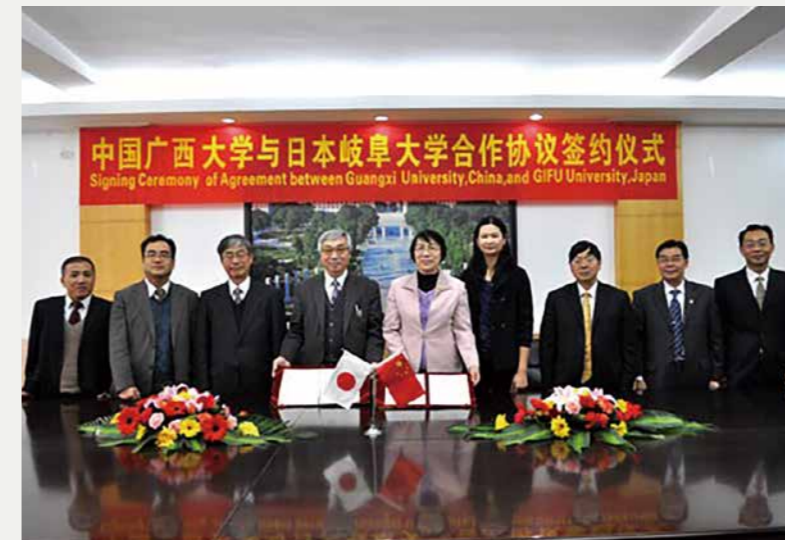
第1期に引き続き地域社会への貢献可能な研究シーズの創出が促進され、更に、国際的拠点の形成を目指した研究を推進しました。地域の関係機関への研究シーズの紹介などの情報発信を継続するとともに、海外の大学との学術交流協定の締結が促進されました。また、大型の競争的研究資金の導入が活発化し、プロジェクト型の研究施設の新設や研究組織の発展的再編が行われ、その一方で、次世代の研究人材の育成も重要視して、学内的な支援制度・体制を整備しました。



2015(平成27)年12月
ダッカ大学(バングラデシュ)にラボステーション(共同実験室)を開設



2011(平成23)年2月
岐阜県ドクターヘリ運航開始



2011(平成23)年3月28日
応用生物科学研究科が広西大学(中国)5学院とダブルディグリープログラム(修士)に関する覚書を締結

国際

学術交流はさらに活発になり、外国人教員や研究者が盛んに本学を訪れるようになりました。2013(平成25)年に「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」を制定し、本学が目指す国際化を「グローバル化(=地域に根ざした国際化と成果の地域還元)」と明確に位置付けて基盤整備を図りました。2015(平成27)年には、グローバル化の司令塔としてグローバル推進本部を設置しました。この時期には、教育連携コンソーシアムなど、複数の協定大学を結ぶネットワーク形成が進みました。また、協定大学との複数学位プログラムなど、国際的な協働による特徴ある育成プログラムをスタートさせました。学生の海外への挑戦も活発になりました。学術交流協定は、大学間協定46大学1機関、部局間協定46機関(平成28年2月1日現在)と、部局間レベルの協定が大幅に増加しました。



2012(平成24)年10月25日
包括連携協定等締結
自治体と岐阜大学との連絡協議会開催



2013(平成25)年12月1日
地域協学センター設置

社会貢献

第2期中期目標では、「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する」ことを基本として、「地域に根ざした国立大学として、多角的な研究能力を活用して、自治体等との組織的な連携活動を推進し、その継続を通して地域の諸課題の解決や地域の再生・発展に貢献する」ために、産業界・自治体との連携に引き続き取り組む一方で、ドクターヘリの運航開始や教育委員会や他大学との連携が開始されました。また、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択されたことを受けて、2013(平成25)年12月には事業の実施主体として地域協学センターを設立しました。



2015(平成27)年9月
平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択



2014(平成26)年10月30日~11月3日
応用生物科学部生が国際合成生物学大会iGEMで銀賞を受賞



2015(平成27)年4月1日
グローバル推進本部設置



医療

岐阜県における医療分野の最後の砦としての役割を果たすべく、さらなる体制の整備を行いました。診療面では、平成22年度には、県の救急医療の充実のためドクターヘリ基地病院として本格稼働を始め、県内医療機関と連携した5大がんに係る地域連携パスの運用、2013(平成25)年度には、最先端のがん治療に対応できる内視鏡医療機器や化学療法施設を拡充した北診療棟の開設など体制を整備しました。教育・研究面では、2010(平成22)年度に、医師の県内定着を図り医師不足を解消するため、県内の主な臨床研修病院8施設と「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」の協定を締結し、魅力的な研修プログラムの提供や臨床研修指導医を対象とした講習会を開催しているほか、医薬品等の臨床研究や医療情報を駆使した臨床研究を実施するため、2014(平成26)年度に「先端医療・臨床研究推進センター」を設置し、組織的に臨床研究を推進する体制を整備しました。



2012(平成24)年4月
新生児集中治療部開設式



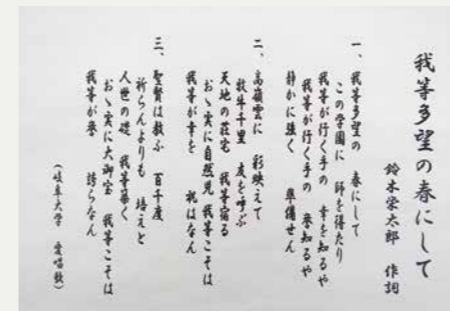
2012(平成24)年10月～
ICカードを用いた新しい病診連携システムを運用開始



2013(平成25)年6月
医学部附属病院北診療棟開設



2014(平成26)年10月
遺伝子診療部開設



2012(平成24)年4月7日
岐阜大学愛唱歌初披露



2012(平成24)年8月1日
研究推進・社会連携機構設置



2013(平成25)年4月6日
岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所



その他



2013(平成25)年12月1日
教育推進・学生支援機構設置



2014(平成26)年6月18日
定例学長記者会見(第1回)開始

本学の長所を生かし、さらに発展させるため、機能強化を推進する組織づくりが進展しました。教育・研究・社会貢献活動を全学的に統括する研究推進・社会連携機構(2012(平成24)年8月)、各部署の教育・学習を全学的に統括する教育推進・学生支援機構(2013(平成25)年12月)の設置です。新たな教育研究の拠点としての岐阜大学サテライトキャンパス開所(2012(平成24)年10月)、岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所(2013(平成25)年4月)、図書館1階にアカデミック・コモンズ整備(2015(平成27)年6月)など、キャンパスの教育環境の整備もさらに進展しました。また、社会との対話を促進するため、2014(平成26)年6月、森脇学長による定例学長記者会見を開始しました。

持続的な競争力を持ち、
高い付加価値を生み出す大学づくり

大学の将来ビジョンに基づく 機能強化の推進と 自己改革の実行

教育

第3期中期目標・中期計画を迎え、教員の専門分野の枠を越えた全学的な教員組織である教育研究院を設置しました。これにより、社会や時代のニーズに迅速に対応し、組織の枠にとらわれない教育プログラムの構築や全学的な観点からの戦略的な教員配置ができるようになりました。

教育組織の改善・強化では、教育学研究科教育実践開発専攻に全国初の学校管理職養成コースの設置、工学研究科、応用生物科学研究科などを統合再編した自然科学技術研究科(修士課程)を設置しました。地域との連携では、岐阜県の中央家畜保健衛生所が本学キャンパス内に開所するほか、社会基盤メンテナンスエキスパート教育に活用するインフラミュージアム(土木構造物モデル展示)を設置しました。



2017(平成29)年4月1日
自然科学技術研究科(修士課程)を設置



2017(平成29)年8月21日
インフラミュージアム設置

研究

岐阜大学の強みとして生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における研究を重視し、中核拠点として地域に根ざしつつ、全国・国際的な拠点形成に展開する取組等が実践されました。次世代金型技術研究センターや生命の鎖統合研究センターの設置など研究環境の整備がより一層充実され、また、岐阜県の中央家畜保健衛生所キャンパス内設置などによる地域連携研究も推進して、地方大学としての役割を果たしながら発展を継続しています。



2016(平成28)年10月1日
研究推進・社会連携機構「生命の鎖統合研究センター」を設置



2017(平成29)年6月16日
岐阜県中央家畜保健衛生所が本学キャンパス内に開所



2018(平成30)年6月7日
スマート金型開発拠点開所式



2018(平成30)年3月28日
「ドクターカー」導入
医師が消防署に常駐待機

社会貢献

第3期中期目標では、社会貢献に関して、県内外の他大学、自治体、地元企業等との連携を拡大したCOCコンソーシアムを形成することにより、地方創生推進事業への取り組みを一層量的に増大、質的に深化させるとともに、大学病院を中心とした地域における高度医療拠点機能のさらなる充実、岐阜県と連携した地域社会への貢献事業を推進することを掲げています。そして、目標達成に向けて、2018(平成30)年4月1日から岐阜市消防本部と共同でドクターカー事業(医学部附属病院の医師と看護師が消防職員の運転する救急車(ドクターカー)に同乗して救急現場に出動)を開始するなど、多様な取り組みを行っています。

国際

グローバル推進本部の国際戦略のもと、国際的な協働教育ならびに日本人学生と留学生の混在型教育を強化しました。2016(平成28)年4月には、地域科学部に国際教養コースを開設しました。また、日本学生支援機構(JASSO)の支援を受けて、受入・派遣双方型のサンドイッチプログラムなど、国際協働教育への取り組みを深めました。さらに、インド工科大学グワハティ校(IITG)およびマレーシア国民大学(UKM)とは、お互いの強みを生かして協働してグローバルな視点を備えた人材を養成するため、国際連携専攻(ジョイントディグリープログラム)を開設しました。この時期、海外の大学との学術交流協定はさらに増加し、また、学生の海外での活動もますます増えました。



2016(平成28)年4月1日
地域科学部に国際教養コース開設



2016(平成28)年10月28日
南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム構成校とのサンドイッチプログラムで学生を派遣および受入



2018(平成30)年3月30日
IITGとJD専攻の設置許可の申請書を提出(2専攻分)

医療

2016(平成28)年に策定された岐阜県地域医療構想において、本院が岐阜県全体の急性期医療の中心的な役割を担うことが確認され、この役割を果たすための取り組みを推進しています。診療面では、平成28年度に医療機能が異なる病院との緊密な連携を図ることを目的としたアライアンスパートナーズ医療機能連携協定、入院業務に関する業務をワンストップで行う入院センターの設置、平成29年度に岐阜県から原子力災害拠点病院の指定、平成30年度には、地域の診療所と連携を密にすることを目的とした病診連携機関登録制度やドクターカー事業の開始、岐阜県からアレルギー疾患拠点病院に選

定されています。また今後のさらなる国際化を念頭に置いた取り組みも開始しました。教育・研究面では、平成30年度に先端医療・臨床研究推進センターの強化を行うとともに、国立がん研究センター東病院等のがんゲノム医療連携病院となり、臨床研究を推進しています。



2017(平成29)年3月
アライアンスパートナーズ医療機能連携協定締結式



2016(平成28)年9月26日
第1回同窓会連合会の集いを開催



2016(平成28)年10月26日
岐阜大学フェアin広西大学(中国)を開催(事務職員も参加)



2018(平成30)年12月25日
国立大学法人名古屋大学と「東海国立大学機構」設立に向けた基本合意書を締結

その他

本学の国際化を支える取組として、2016(平成28)年10月、本学の事務職員の国際化を促進のため、はじめての岐阜大学事務系職員海外実務研修を実施しました。事務系職員を広西大学(中国の本協定校)に3週間派遣し、岐阜大学フェアを現地で開催するものです。また2018(平成30)年4月、教育推進・学生支援機構内に「イングリッシュセンター」を設置し、全学共通教育における体系的な英語4技能の育成を開始しました。教育研究環境の整備として、岐阜県の中央家畜保健衛生所、インフラミュージアムなどハードの設置のみならず、2018(平成30)年2月、ミニストップ株式会社および岐阜大学生協と、災害時の飲料・食料の提供など相互協力に関する協定書を締結しました。



2018(平成30)年4月
岐阜大学イングリッシュ・センター開設

岐阜大学キャンパス芸術作品

Art of Gifu University

70周年を迎えるにあたり、大学全体として収蔵品を整理し、インデックス化を行い、可能なものは公開するキャンパス・ミュージアム構想を始動させました。また、2018(平成30)年11月4日に第35回 岐阜シンポジウム「岐阜大学の芸術・文化に浸ろう！」を開催したことにあわせ、芸術作品を紹介するためのカタログを作成しました。その中の一部をここで紹介します。



彫刻 Sculpture



郷悦三 (ごう えつそう / 1928) 「風笛」 [図書館前]



島田勝吾 (しまだしょうご / 1940-2016) 「少女と鳩」 テラコッタ [教育学部棟内]



林武史 (はやし たけし / 1956) 「ならぶこと - Standing in line」 1999 [岐阜大学バス停横芝生広場]



御宿正司 (みやと まさし / 1930) 「金華山」 1980年頃 [本部棟内]

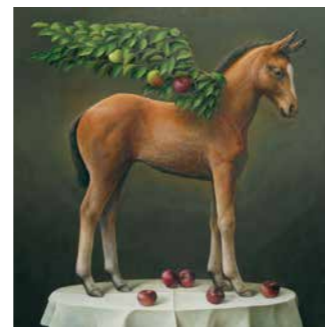
絵画 Painting



傍島幹司 (そばじま みきじ / 1960) 「魚とり」 2018 [教育学部美術教育講座所蔵]

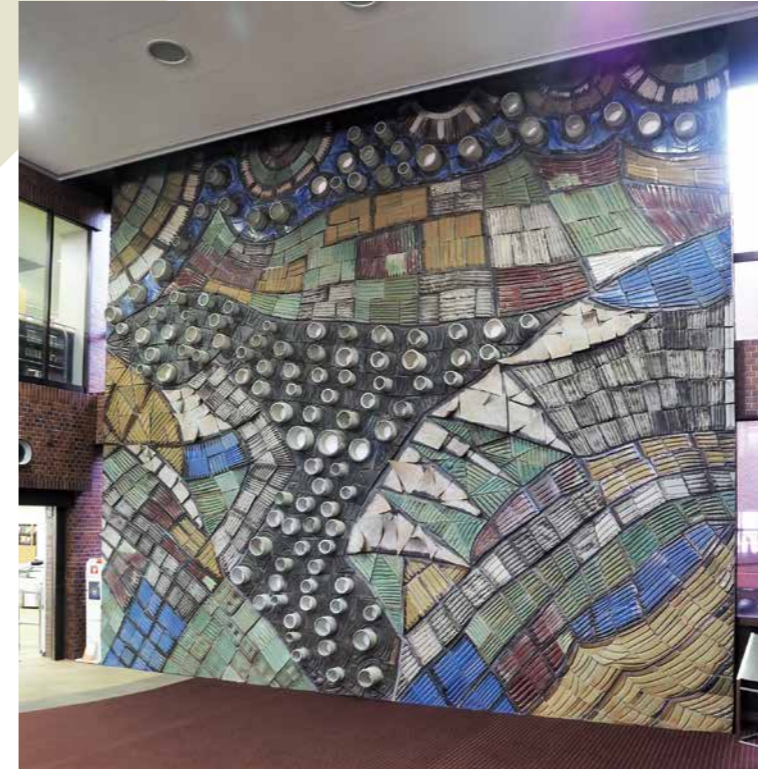


坂井範一 (さかい はんいち / 1899-1981) 「舞妓」 1965年頃 [教育学部美術教育講座所蔵]



奥村晃史 (おくむら あきふみ / 1972-) 「子馬のペガサス」 2013 [教育学部美術教育講座所蔵]

陶壁 Ceramic art



九谷興子 (くたに こうじ / 1911-1998) 「寸胴譜」 1982 [図書館入口]

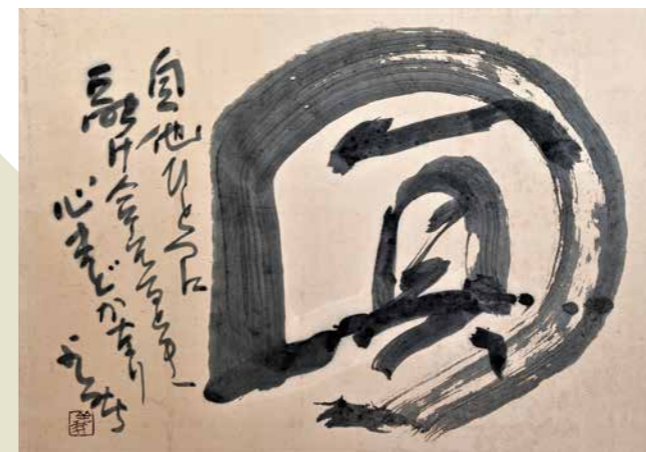


加藤鈔 (かとう しょう / 1927-2001) 「春の舞」 1981 [医学部棟]

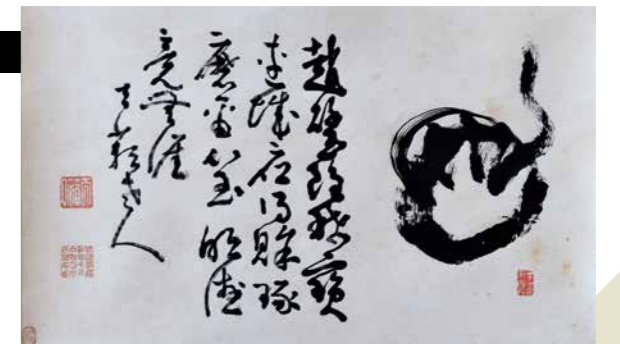


加藤春鼎 二代目 (かとう しゅんてい / 1927-1995) 「陶壁」 1981 [本部棟 1F]

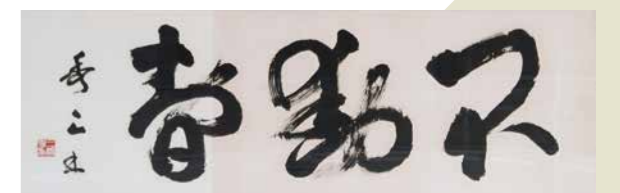
書 Japanese calligraphy



関谷義道 (せきや よしみち / 1920-2006) [本部棟内]



棚橋天籟 (たなはしてんらい / 1834-1910) [本部棟内]



三橋秀三 (みつはし ひでそう / 1904-1984) 「不動智」 [武道館内]

岐阜大学創立70周年記念式典

2019(令和元)年6月1日(土)、長良川国際会議場(岐阜市長良福光)において、岐阜大学創立70周年記念式典が挙行されました。岐阜大学は、1949(昭和24)年5月31日に新制大学として発足してから数えて70周年を迎えることを祝い、各界の代表者、地域の方、卒業生、本学退職者、本学現職員、学生など、約400名の方々が集い、70周年の大きな節目を祝いました。

その後、場所を都ホテル 岐阜長良川に移し、創立70周年記念祝賀会が盛大に開催されました。



記念式典

記念式典で、森脇学長は創立70周年記念式典を挙げてきたことへの感謝を述べるとともに、本学の歴史を振り返りながら、これからの岐阜大学について、その思いを語りました。その後、柴山昌彦文部科学大臣、野田聖子衆議院議員、古田肇岐阜県知事、柴橋正直岐阜市長、吉田政直岐阜大学同窓会連合会長からの祝辞を賜り、祝電が披露されました。

また、70周年記念事業への支援、教育研究環境の整備に対する協力、そして、教育研究の発展に寄与された個人(7名)及び企業(21社)へ感謝状が贈呈されました。



受付にてお出迎え



森脇学長による式辞



会場の様子



柴山昌彦文部科学大臣代読
(佐藤邦明文部科学省国立
大学法人支援課視学官)



野田聖子衆議院議員



古田肇岐阜県知事



柴橋正直岐阜市長



吉田政直岐阜大学同窓会
連合会長



感謝状の贈呈

記念演奏会

岐阜県交響楽団と岐阜大学管弦楽団のコラボレーションによる演奏が披露され、70周年の祝宴に華を添えました。

【曲目】 グリーク作曲 ベールギェント組曲より
朝(第1組曲第1曲)
アラビアの踊り(第2組曲第2曲)
イングリットの嘆き(第2組曲第1曲)
山の魔王の宮殿にて(第1組曲第4曲)
ブラームス作曲 大学祝典序曲



演奏会の様子

記念講演会

記念講演会では、講師として金城俊夫第9代岐阜大学長を招き、「岐阜大学の改革 - 在任期間を振り返って - 」と題した講演を行いました。



ステージ上で講演する金城俊夫第9代岐阜大学長

記念祝賀会



会場の様子



乾杯酒の「岐阜大酒 多望の春 岐山、多望の春 曲阜」



乾杯の挨拶は
黒木登志夫
第10代岐阜大学長



森脇学長と松尾名古屋大学総長



会場の様子



岐阜大学学術アーカイブズの紹介

岐阜大酒「多望の春 岐山／曲阜」完成

2019(令和元)年4月3日(水)



本学応用生物科学部で2013(平成25)年から日本酒を開発するプロジェクトが行われ、5年間かけて完成に至りました。本プロジェクトは米造り、応用微生物学・醸造の知識、商品化・流通、健康・機能性等に関する学習について実践を交えながら、理解する、という応用生物科学の総合的学習プログラムとなっており、原料である米(ひだほまれ)、水(岐阜大学地下水)、酵母、仕込みをすべて岐阜大学生が行い、岐阜県の酒蔵で醸造した「ALL 岐阜」の日本酒です。

ネーミング、デザインについて、岐阜大学の愛唱歌である「我等多望の春にして」の曲名の一部が由来となり、岐阜大ブランド発展となるべく大きな希望を込めた、「多望の春 岐山／曲阜」と命名しました。ラベルは古代中国の甲骨文字をもとにデザインされました。

「岐山」は白ワインを思わせる甘酸っぱい味わいの清酒であり、「曲阜」は淡麗辛口な味わいの清酒となっています。

岐阜大学学術アーカイブズ完成

2019(令和元)年5月31日(金)



図書館内に新たにアーカイブ・コア、そして各学部の特性を活かした3つのアーカイブ・サテライトを設置し、岐阜大学がこれまで生み出してきた様々な資料を整理・保管し、地域の学術文化拠点となる「学術アーカイブズ」が完成しました。

また、岐阜大学のキャンパスにある様々な資料をいつでも・だれでも、自由に楽しんで欲しいという思いから「岐阜大学デジタル・キャンパス・ミュージアム」(通称:デジ☆キャン)を開設し、スマートフォン等を使ってキャンパスの樹木や美術品などの場所と情報を閲覧可能にしました。

デジ☆キャンはこちらから



岐阜大学創立70周年記念セミナー

2019(令和元)年5月29日(水)



70年前、岐阜大学はどのように誕生したのか。本学誕生の秘密に迫るセミナーが開催されました。セミナーでは、高等教育論や大学史を専攻する教育推進・学生支援機構の廣内大輔准教授が本学創立の際、大学本部の住所をどこに置くかをめぐって紛糾したことや、初代学長の選考にあたっては候補者が岐阜出身であるか否かが検討されていたエピソードが紹介されました。

続いて、初代学長を務めた動物学者の青木文一郎氏が、岐阜市に生まれ、東京に学び、台湾の地で長く教鞭を執っていたこと、そして戦後、引き上げて学長となるまでの人生が、貴重な史料や写真とともに披露されました。

参加者一同、本学の来し方に思いを馳せ、その歴史の重みを実感した一日となりました。

「岐阜大学」をロケ地とした映画作品を上映

2019(令和元)年6月8日(土)～9日(日)



岐阜大学の歴史を映画作品が撮影された当時の風景、文化とともに振り返り、よすがとするため、現在もフィルムで映画作品を上映している「ロイヤル劇場」(岐阜市日ノ出町)において、「岐阜大学」をロケ地とした映画作品2本(「ジェネラル・ルージュの凱旋」(2009年:東宝/ロケ地:医学部附属病院)、「人生劇場」(1983年:東映/ロケ地:旧農学部(各務原市))ならびに「岐阜県」をロケ地とした映画作品3本を上映しました。

また、6月8日(土)には、特別対談として、映画通で知られる森脇久隆学長と長年ロイヤル劇場の経営に携わる磯谷貴彦氏(岐阜土地興業(株)企画本部長)が、映画に対する熱い思いや、文化を未来に継承することの重要性を語り合いました。

のべ約530人の観客が、イベントのために特別に作成されたパンフレットを傍らにおいて作品を鑑賞し、撮影された当時の岐阜大学、岐阜県内各所の風景、文化を、目で見、耳で聞き、肌で感じた2日間となりました。

岐阜大学創立70周年記念誌 「岐阜大学の七十年」を発行しました。

20世紀の末から、国立大学を取り巻く環境は、徐々に厳しいものへと変貌してきました。本学においても例外ではなく、教育再生プラン、“遠山プラン(大学の活性化を目指した「国立大学の構造改革の方針」)”そして中央教育審議会等々からの衝撃を受ける中で、大仕事としての“国立大学法人化への移行”等、次々に対応してきました。この度発行した、岐阜大学創立70周年記念誌「岐阜大学の七十年」では、創成期からの50年間の振り返りに加え、70周年を迎える2018年上半期までの20年間に本学が如何にして前に進み発展してきたかを、活動記録集の束から紐解き、写真を中心にお示ししています。

この間、9代から12代の歴代学長(金城学長・黒木学長・森学長・森脇学長)の下で、“「学び・究め・貢献する」岐阜大学を、「人が育つ場所」という風土の中で実現する”、という本学のスローガンが進化を伴って継承され、掲げられてきました。このスローガンを基に、第三期中期目標・中期計画では、12代森脇学長の下で、本学の将来ビジョン(森脇ビジョン、2025年に向けて):「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成を目指します」が示されました。そしてビジョン達成のための5つの戦略として「教育」、「研究」、「社会貢献」、「国際化(国際)」、「大学病院(医療)」が掲げられ、各々の戦略の進捗状況を半期毎に公開してきました。

この20年間に及ぶ本学の活動記録の写真群を時系列的に、法人化前(2003(平成15)年度以前)、法人化後(2004(平成16)年度以降)、中期目標・中期計画の第1期から第3期の期間毎に分けました。

尚、各々の活動記録は、毎月発行の「学報」、年2回発行の「岐大のいぶき」及び日々更新される本学HPに掲載された記事等から本学70周年記念誌に相応しい事項を選び出しました。

また、キャンパス・ミュージアム関連として、“岐阜大学キャンパス芸術作品”の項を掲載しました。新たに寄贈された作品も含め、屋内外に展示されている数多くの芸術作品のほんの一部を紹介しております。他の関連資料と併せて楽しんでいただければ幸いです。

理事(国際・広報担当)・副学長
鈴木 文昭



岐阜大学創立70周年記念誌「岐阜大学の七十年」は
岐阜大学図書館で閲覧することができます

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、“伊吹おろし”と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきは Web からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



■ 「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学総合企画部総務課広報室広報係 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-2009 FAX 058-293-2021 Email kohositu@gifu-u.ac.jp